

助成事業実施報告書

団体名..... 広域避難者支援連絡会 in 東京

代表者・役職名 氏名..... 横山聡

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

広域避難者交流プログラムの開催

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

広域避難者支援連絡会 in 東京は、東日本大震災で故郷を離れ避難している方が少しでも安心した生活を送れるよう、都内の支援団体や避難当事者団体を対象とした交流の場づくりや地域でのネットワークづくり等の支援を通して、都内に避難されている方を支援することを目的としている。2013年6月設立。現在14団体が参加している。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

東日本大震災で避難生活を余儀なくされている方への支援活動。2018年5月現在、都内には5千人弱の被災者が避難生活を送っている。震災から7年が経つ中で避難者同士の交流の場の減少、避難者と支援者がつながる場所が減ってきている。一方、避難者への支援の減少や福島県内では避難区域の再編等もあり、避難者へのサポートやよりそいの活動は今後も必要となっている。こうした中、①避難者同士がお互いに心配し、励ましあえる場、情報交換できる場、②避難者と支援者がつながれる場、そして、③一般の市民に避難者のことを知って頂く場として交流会を開催する。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

名称: 避難者と支援者による ふれあいフェスティバル
 日時: 2019年3月17日(日) 場所: 飯田橋セントラルプラザ1階・10階・12階
 参加者: 避難者、支援者、一般市民(セントラルプラザ利用者)
 企画: 当事者団体と支援団体による実行委員会にて企画を検討した。
 ② ステージプログラム(福島県等の伝統芸能、支援団体からのメッセージ等)
 ② ブース展示(避難当事者団体紹介ブース、支援団体ブース、専門家ブース(相談等)、情報提供コーナー)
 ③ 避難者のことを知ってもらうパネル展示(セントラルプラザ1階区界ホールにて)

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

結果: 実行委員会15回開催、フェスティバルを開催し参加者275名(うち避難者149名)
 成果: 避難者同士の交流を深めることができ、明日からの避難生活に希望を持たたといった声が聞かれた。また、新たに避難者支援に関わりたいというボランティアが2名いらっしや、支援活動につなげることができた。支援の輪がひろがるきっかけとなった。はじめてセントラルプラザ1階にてパネル展示を行うことができ一般市民の方に避難者について知っていただくきっかけを作ることができた。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

仮設住宅の供与終了に伴い、避難当事者団体が減少しており、避難者への周知が大きな課題になってきている。また、当事者団体の減少に伴い、避難者同士の交流の場や様々な支援の問い合わせを避難者につなぐ場が減っている。だからこそ、ふれあいフェスティバルのような場が必要だが、年に1回だけでは日常の生活を互いに支える場にはなりにくい。日常の取組みとの連携をどのように行っていくのかが今後の大きな課題。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし